

短 報

イタヤカエデの品種エゾイタヤとエンコウカエデの学名訂正 (大橋広好)
Hiroyoshi OHASHI: Correct Names for Two Forms in *Acer pictum* (Aceraceae)

イタヤカエデの学名として, *Acer mono* Maxim. が広く適用されていたが, 正名は *Acer pictum* Thunb. であることが明らかとなり, その種内分類群の学名を整理した (Ohashi 1993). その際, 品種としてのエゾイタヤおよびエンコウカエデの学名を誤って発表した. 次のように訂正したい.

1. *Acer pictum* Thunb. in Murray, Syst. Veg. ed. 14, 912 (1874).

f. *mono* (Maxim.) H.Ohashi, comb. nov.

A mono Maxim. in Bull. Phys.-Math. Acad. Sci. St. Petersb. 15: 126 (1856).

A pictum f. *mono*: Ohashi in J. Jpn. Bot. 68: 321 (1993).

エゾイタヤ

2. *Acer pictum* Thunb. in Murray, Syst. Veg. ed. 14, 912 (1874).

f. *dissectum* (Wesmael) H.Ohashi, comb. nov.
A pictum var. *dissectum* Wesmael in Bull. Soc. Bot. Belg. 29: 56 (1856).

A pictum f. *dissectum*: H.Ohashi in J. Jpn. Bot. 68: 319 (1993).

エンコウカエデ

引用文献

Ohashi H. 1993. Nomenclature of *Acer pictum* Thunberg ex Murray and its infraspecific taxa (Aceraceae). J. Jpn. Bot. 68: 315-325.

(東北大学大学院理学研究科生物学教室)

シロウマアカバナについて (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: On *Epilobium shiromense* Matsum. & Nakai

北アメリカのアカバナ科の専門家である, Missouri Botanical Garden の Peter C. Hoch 氏は, 1997, 1980 年に東大のアカバナ属の標本を調べているが, その際, シロウマアカバナについてそのことを一部の標本上に記している. 同氏はその見解を発表していないようなので, その見解を検討した結果を述べる.

シロウマアカバナは本州中部と北海道の高山に分布する日本固有の種類として扱われ, *E. shiromense* Matsum. & Nakai の学名が使われている. これは種子の表面が滑らかで, 他の種類のように乳状突起を持たないことで, カムチャツカや千島に分布するタラオアカバナ *E. serrulatum* Hauskn. と共に, 特定の群を示す重要な特長である. Hoch 氏は 1980 年に, これは *E. lactiflorum* Hauskn. であると, *E. shiromense* の type 標本上に記している. *E. lactiflorum* は北半球の寒帯に広く分布する. Hultén (Fl. Alaska: 692, 1968) によって分布

図が描かれているが, 地域ごとに隔離した形で広がっている. 日本の近くではアラスカに見られる. 日本のものは同種であっても, 地域的に孤立し, やや南にかたよっている. しかし両者を比べてもどこにも差異は見当たらないし, 種子の表面が滑らかであることも同じである. タラオアカバナが間に介在しているけれど, Hoch 氏の主張どおり, 同種として扱うのが正しいと思う.

問題なのは学名で, 二つの見解が存在する. Linné の *E. alpinum* は二つの群からなっていて, この群を別種として扱う場合 *E. lactiflorum* Hausskn. と *E. anagallidifolium* Lam. として区別される. Hegi' III. F1. Mitteleuropa V-2: 848 (1965) では両者を区別せずに *E. alpinum* L. が使用され, *E. anagallidifolium* Lam. は異名として扱われている. E. I. Shterberg も Fl. URSS. 15: 607 (1974) で同じ見解である. 一方 M. L. Fernald は Gray's

Manual of Botany. ed. 8: 1062 (1950) で *E. alpinum* L. (*E. lactifolium* Hauskn.) と *E. anagallidifolium* Lam. を別の種類として記述している。Hultén, Fl. Alaska (1968) でも, P. H. Raven の Fl. Europaea. 2: 310, 311 (1968) でも両者を別種とする見解である。 *E. lactifolium* と *E. alpinum* の差異は量的で, 前者が環境の良い場所に, 後者が厳しい環境に生育することからの相違ではないかと思われる。日本のものは両者の中間的な形態である。Hoch 氏が *E. anagallidifolium* Lam. と標本上に手書した, 北アルプスの燕岳のものは, シロウマアカバナの小型のものであることからも, 両者を別種とする考えには疑問がある。しかし, これはヨーロッパやアメリカで解決すべき問題で, 日本で議論することは無理である。両者を別種とする場合 *E. alpinum* L. = *E.*

lactifolium Hauskn. として扱われている。両者はほぼ同じ分布をしているが, *E. anagallidifolium* の方が広く分布している。両者を同一種類とすれば, アジア近辺ではスペリア, カムチャッカ, ア拉斯カ, アリューシャンに広く分布することになり, シロウマアカバナはその延長線上にあることになる。

Epilobium alpinum L., Sp.: 348 (1753), p. p.
Epilobium lactifolium Hauskn. in Oestr. Bot. Zeitsh. 29: 84 (1879).

Epilobium shiromense Matsum. & Nakai in Bot. Mag. Tokyo 22: 154 (1908); H. Hara in J. Jpn. Bot. 18: 245 (1942); Kitam. & Murata, Col. Ill. Herb. Pl. Japan 2: 40 (1961); Ohwi, Fl. Jap. ed. 2: 954 (1975); Kitag. in Satake & al., Wild Flow. Japan, Herb. Pl. 2: 266 (1982), *syn. nov.*

(東京都中野区 [REDACTED])

アカミノイヌツゲ千島に分布 (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: *Ilex sugerokii* Maxim. var. *brevipedunculata* (Maxim.) S.Y. Hu Is Newly Found in the Kuriles (Isl. Etorofu)

東京大学に保存されている古い標本を整理したところ千島からアカミノイヌツゲ *Ilex sugerokii* Maxim. var. *brevipedunculata* (Maxim.) S.Y. Hu が採集されているのを見ついた (択捉島, K. Kondo, Jul. 14-15 1927, no.

2275, TI, TNS). アカミノイヌツゲは本州中部以北, 北海道に分布していて, 従来の北限は知床半島であったが, 南千島の択捉島まで広がっていることになった。

(東京都区 [REDACTED])